

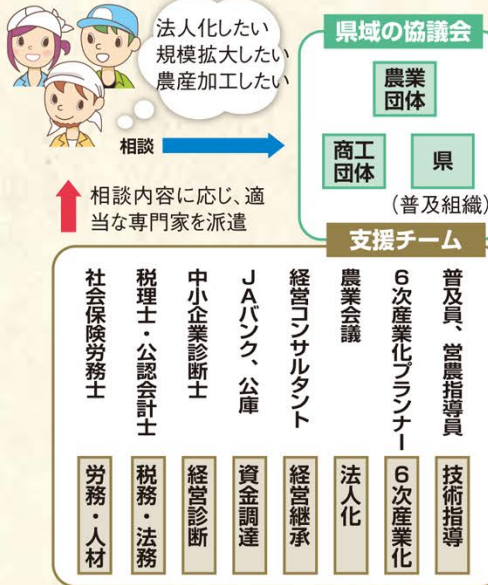


担い手通信



JA bank Mie

農業経営者サポート事業の仕組み



農水省が「農業経営者サポート事業」として、2018年度予算案に盛り込みました。農業経営の法人化などを支援する総合事業に17

年度比36%増の9億1000万円を充て、その内数で対応します。多様な経営課題に対応できるように、幅広い分野の専門家を派遣できる体制を各

県域で整えます。JA中央会や農業会議、農地中間管理機構(農地集積バンク)、県の普及組織といった

農業関連組織に加え、商工会議所など商工団体も加わって協議会を立ち上げ、経営の相談窓口を設置。相談窓口をどの組織に設置するかは各協議会に委ねられますが、JA中央会や農業会議、農地集積バンクなどが想定されます。

協議会の各構成組織に係る専門家や、支援チームも組織します。営農技術指導する県の普及員やJA営農指導員、経営分析を担うコンサルタント、資金調達の相談に乗るJAバンクや公庫担当者、雇用者の労務管理などを指導する社会保険労務士といった人材の中から、相談を寄せた農家の課題解決に必要な専門家を選抜し、派遣します。

例えば農家が、イチゴの施

Topic 今月の話題

専門家チームを派遣

経営多角化の支援強化

農水省

農 水省は、法人化や規模拡大、6次産業化といった新たな経営展開を目指す農家への支援体制を強化します。各県域で農業・商工団体と行政一体で経営相談の窓口を設置。そこでの相談内容を踏まえ、専門家や支援チームをつくり、農家に派遣します。1カ所の相談窓口で、幅広い経営課題に対応できる体制を整え、効果的、効率的な支援につなげます。

設栽培を計画した場合、施設建設に必要な土地や資金の確保や補助事業の活用、栽培技術の習得、経営計画の策定など、実現には多様な対応が必要となります。こうした各課題の解決を専門家チームが継続的に支援することで、農家の負担を解消します。

数字でみえる 三重県の農と食

900日以上

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

特産松阪牛の肥育日数

農水省の地理的表示(GI)保護制度に2017年3月に登録された「特産松阪牛」は、兵庫県産の子牛を三重県の松阪地域で900日以上長期肥育した未経産の黒毛和牛の事で、通常の松阪牛と比べ長く肥育する必要があります。松阪牛協議会によると、松阪牛全体の約4%(15年度実績)と非常に少ない割合となっています。

JA松阪

新年から続々と 元日からイチゴ

JA松阪いちご部会は1月1日からJA管内の集出荷場でイチゴ出荷を始めた。初日の元日には約1.5トンを集めた。同部会は正月から消費者に新鮮なイチゴを食べてもらおうと、毎年元日から集出荷に取り組んでいる。「章姫」を中心に「かおり野」「紅ほっぺ」の3品種を出荷した。2017年度産のイチゴは、悪天候が続いたことや台風の影響により、生育が1週間から10日ほど遅れている。また、寒さが続いているため、着色が遅れているものの大きさや形、食味は良好で、品質の良いものが出そろっている。(2018/1/5 ワイド1東海)

JA多気郡

エゴマ搾油所新設 待望の「初搾り」

JA多気郡は、2017年度に新設した搾油所で初めて「えごま油」を搾った。JAの西井正組合長と「えごま倶楽部(くらぶ)」の辻川トシ子代表は10日、大台町の尾上武義町長に「えごま油」と「えごま茶」を贈呈し、試飲会を開いた。「えごま茶」は12月に新発売したものだ。JAは管内産のエゴマ生産が増えていることを受けて搾油所を新設。新商品開発、販路拡大にも力を入れている。(2018/1/11 ワイド1東海)

JA伊勢

市町対抗駅伝へ伊勢茶など贈る

JA伊勢は1月上旬、三重県で開かれる「第11回美(うま)し国三重市町対抗駅伝」に出場する選手団の激励に、JAの加藤宏組合長が南伊勢町南勢庁舎を訪問した。小山巧町長に、ペットボトルの伊勢茶(500ml)24本と、スポーツドリンク48本を贈った。駅伝は2月18日に行われ、JAバンク三重が特別協賛する。贈呈式で、加藤組合長は「選手団の皆さんの力になればうれしい。健闘を祈っている」と激励した。(2018/1/17 ワイド2東海)

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

「クラウドまるみえホカクン」 配備で被害軽減を実証

野

生鳥獣の被害対策に、情報通信技術(ICT)を活用した檻や罠の遠隔監視・操作システムの「クラウドまるみえホカクン(1月号を参照)」を集中的に地域に配備し、捕獲した現地実証で、被害対策と併用することとで、被害の軽減が確認された。

同機器を18基設置した伊賀市の実証地域では、1年でシカ200頭、サル430頭を捕獲しました。シカは防護柵の併用で大幅な被害の軽減(図1が

できます。サルは群れ単位の個体の管理が可能になることから、追い払いなどの被害対策の併用で被害発生集落を減らす(図2)ことが可能になります。

三重県農業研究所(研究担当 山端直人)現在、兵庫県立大学)では、被害対策と併せた捕獲計画、専任の組織や体制の構築で、被害軽減の効果は高まるとして、県や市・町、住民組織などが共有可能な計画を策定した上で同機器を導入することを勧めています。

図1 シカによる被害面積の変化

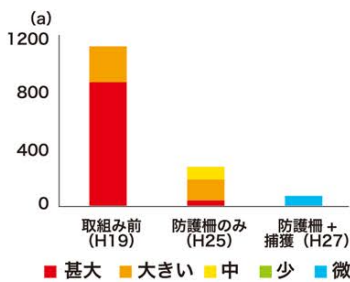
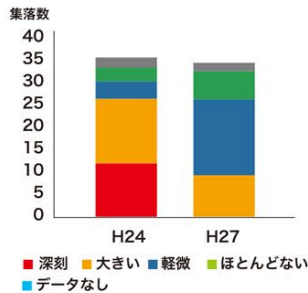


図2 サルによる集落被害の変化



お問い合わせ先 三重県農業研究所 地域連携研究課 ☎0598-42-6356 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 ☎0795-80-5500

短期の運転資金が必要になった方に

今ならJAバンク利子補給制度により 最大年1%の利子補給が受けられます。

スーパーS資金

農業経営改善促進資金

認定農業者向けの 低利・便利な短期運転資金です

- 家畜等の購入資金
- 種苗代・肥料代・雇用労賃などに
- 農舎・畜舎の補修農業機械の修繕費



詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。 http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/



平成30年1月現在

【金利情報】平成30年1月25日現在

農業経営資金

変動金利 年1.00%

固定金利 年1.50~2.00%

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金

年1.5% (変動金利)